

## 京都市動物愛護推進部会の協議状況について

### 1 部会設置の目的

京都市動物愛護行動計画に基づく取組を進めていくに当たり、動物愛護管理行政だけでは解決が難しい課題について、専門的な知見から具体的な検討を行う必要がある。

上記の課題に特化した検討を行うため、京都市動物愛護推進会議の作業部会を設置する。

### 2 検討内容

部会では、第二期京都市動物愛護行動計画にある新規・強化事業のうち、特に、多機関連携が必要となる「動物愛護教育の推進」及び「多頭飼育・ひとり暮らし高齢者対策」について検討する。

### 3 動物愛護教育の推進について

#### (1) 委員構成

<座長>

清水 智樹 (京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 特定講師)

<委員>

中村 友彦 (京都市総合教育センター指導室 主任指導主事  
京都市動物愛護推進会議委員)

西谷 景子 (京都動物愛護センター卒業ボランティア・  
NPO法人古都ねこくらぶ 理事長・京都市動物愛護推進員)

松岡 幸子 (認定NPO法人アンビシャス 理事長・  
京都市動物愛護推進会議委員)

#### (2) 開催状況

##### ア 第1回

##### 【日時・場所】

令和4年8月18日(木) 午後2時から3時@京都動物愛護センター

##### 【協議概要】

- 動物愛護副読本について、教材としての使用感は良い。課題は、教員にどのようにして教材を届けるかである。
- 総合学習では、仕事について学ぶ機会がある。例えば動物愛護センターで働く獣医師の話として、動物愛護センターの話などを紹介することは可能である。
- 授業は子どもにとって、考え、体験する方が心に残りやすく、依頼される先生方にとっても取り入れやすい教材である必要がある。
- 生活科では、「体験」できる機会を大事にしている。アニラブクラスは「体験」型の授業であり、学校にとってもありがたい。先生への周知の方法や気軽に申込ができるシステムを作ることが大事である。
- アニラブクラスについては、申込案内から実際の授業の様子などを含めた、全体の流れがわかる資料があればよいのではないかと。授業を行う先生方に対してもアプローチしやすく、また保護者への説明にも使用できるのであれば、不安や心配事なども事前に説明することが可能になる。

- 動物愛護センターでボランティアが企画・実践している子ども向けのイベントは、すごく子どもたちの反応が良い。ボランティアは、この取組を学校現場でも広めていきたいと思っている。
- 触れ合いができない時でも対応できるように、授業で見ることのできる動画等の作成を検討してはどうか。

## イ 第2回

### 【日時・場所】

令和4年10月3日（月）午後2時から3時30分@オンライン

### 【協議概要】

（事務局から、アニラブクラス等の取組をまとめた動物愛護教育事例集案を提示）

- 事例集に「動物愛護センター獣医師の話を聞く」といったコンテンツは掲載して欲しい。「仕事」の単元は必ず履修する一方で、外部講師を招くには、担当教師や学校の伝手に頼っている。もし、動物愛護センターの獣医師への講師依頼が行えるのならば、需要はある。
- 事例集は紙媒体かと思うが、動物愛護センターのホームページやSNSでも、現在実施している動物愛護教育の取組を積極的に発信する必要がある。
- 事例集の周知でアニラブクラスへの申込みが多くなり対応できなくなることも想定して、代替りのコンテンツ（動画等）も検討した方が良い。

### (3) 今後の方向性

本市の取組をまとめた動物愛護教育事例集を作成し、本事例集を教員へ配布することで、まずは現行の取組を周知するとともに、動物愛護センターを紹介する動画等の作成を検討する。

## 2 多頭飼育・ひとり暮らし高齢者対策

### (1) 委員構成

<座長>

清水 智樹（京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 特定講師）

<委員>

大國 智子（京都市動物愛護推進会議委員・京都市動物愛護推進員）

黒島 妃香（京都大学文学研究科 教授 心理学研究室CAMP  
（コンパニオンアニマルマインドプロジェクト）所属）

松岡 幸子（認定NPO法人アンビシャス 理事長・  
京都市動物愛護推進会議委員）

松本 恵生（京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会  
副会長）

### (2) 開催状況

#### ア 第1回

### 【日時・場所】

令和4年8月18日（木）午後3時15分～午後4時15分@京都動物愛護センター

### 【協議概要】

- 他機関連携という点で、ようやくスタートしたという印象である。まずは、介護や福祉等の担当者に対し、もし事例を発見した場合には、どこに連絡すればいいのか、どのような内容を伝えればいいのか、そうした周知から始めた方がよいと思う。
- 犬を保護して欲しいという相談をよく受ける。しかし、相談者は飼い主のことは分かるが、その犬の性格やワクチン接種歴等までは知らないことが多く、具体的な支援までに至らない。
- 相談先の周知としてチラシを配布しても、他のチラシ等に埋もれてしまう。クリアファイルに必要な情報を記載したものを配布してはどうか。詳細な情報は二次元コードから辿れるようにすれば、より効果があると思われる。
- 地域包括支援センターの職員には、動物愛護センターや区役所に赴き、担当職員同士で話し合う機会を設けることも有効に思う。
- 動物愛護センターの卒業ボランティアが、そうした話し合う場に参加してもらえるようになれば、区ごとにそういった機会を設けることができるかもしれない。
- モデルケースとして、職員やボランティアと課題解決に取り組んでみるのはどうか。活動していくうちにノウハウが蓄積されていくし、うまく運べば他の地域でも取り組んでみようかという気持ちになるのではないか。
- 京都は学生の街とも言われている。学生には、一人暮らしだから自身は飼えないが、ペットは好きであり、世話だけでもしたい人もいる。学生との連携も良いのではないか。
- 民間サービスを活用するにしても、経済力が必要となる。そうした中、学生ボランティアなどが上手く機能すれば良いように思う。
- 民間サービスとしては、ペットのデイサービスのようなものがあればよいと思う。

## イ 第2回

### 【日時】

令和4年10月6日（木） 午後2時～午後4時@オンライン

### 【協議概要】

#### <取組の方向性（多頭飼育対策）>

- 避妊去勢手術の助成事業は、助成頭数に上限があり、多頭飼育崩壊の事案によってはボランティアの負担で避妊去勢手術をしている事例がある。
- 多くの場合は、経済的負担も考慮したうえで動物を飼い始める。そうした市民に対しても助成制度が必要か、検討する必要がある。本当に支援が必要な人に対して助成できるよう、工夫する必要がある。
- 動物を飼い始めたタイミングに避妊去勢手術の必要性を飼い主へ伝えることが重要で、それができる枠組みを構築することが必要である。
- 社会福祉関係職員やペットを飼っている高齢者が相談できる「相談会」を開催する場合は、区役所で開催して欲しい。
- 先日、福祉関係職員対象に開催された多頭飼育対策に関する研修会に参加された方からは、避妊去勢手術の重要性を初めて理解した、との声もあった。こうした研修を今後も実施することにより、一人でも多くの関係者が知識を得ることができるようになることが望ましい。また、職員だけでなく、地域住民も共有できるような事例

集などがあればよいと思う。

<取組の方向性（ひとり暮らし高齢者対策）>

- ひとり暮らし高齢者が飼っているペットの世話を支援する民間サービスは少ない。その支援を学生と連携する場合は、学生に対する事前の説明が必要かと思う。
- 動物愛護センターの卒業ボランティアと連携する場合は、卒業ボランティアが地域へ入りやすいよう後押しできる制度の構築が必要である。
- 地域包括支援センターで訪問した高齢者には、昔は動物を飼育していたが、今は自身の年齢により飼育を諦めているという方も多し。こういった方には、一時的な預かりや世話等であれば可能であるケースもあり、うまくマッチングできればよい。
- 高齢者等がよく参加されている社会福祉協議会等の講座で、避妊去勢手術の話など、ペットに関する話題を盛り込むことはできないか。

### (3) 今後の方向性

	対策	予防	
<b>多頭飼育 対策</b>	<b>【社会福祉関係部署との連携】</b> ・相談会の開催 動物愛護推進員 (卒業ボランティア) との協働	・相談会 の周知	<b>【社会福祉関係部署との連携】</b> ・研修会の開催 ・飼い主への啓発 (避妊去勢手術)  <b>【その他】</b> ・避妊去勢手術助成 事業のあり方を検討
<b>ひとり 暮らし 高齢者 対策</b>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">             ・<u>民間サービスの紹介</u>              (世話代行など)           </div>		<b>【社会福祉関係部署との連携】</b> ・飼い主への啓発 (ペットのための <u>終活について</u> )  <b>【その他】</b> ・ <u>高齢者の生活を支援</u> する学生との連携